

科目名	技術科学表現演習 I Technical Japanese Expression			担当教員	山内庄司		
学年	3	学期	通年	科目番号	09407	単位数	1
分野	専門	授業形式	講義	履修条件	必履修		
学習目標	技術者に求められる論理的／客観的な表現力を実践的演習により学ぶ。主な学習項目は線図の描き方、理工系の文章表現法の基礎（言葉づかい、漢字／かな表記、送りがな、常用漢字、外来語の表記法など）、技術表現道具としてのワープロ／表計算ソフトの使い方などである。						
進め方	演習書とプリントを用いた演習を中心とし、要点の解説を交えることで学生の理解度を高める授業を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格判定水準			
	1. 導入、グラフの描き方 1 (2) 2. 初級演習 1 (5) 横書き、段落、誤字、句読点、送りがな、 同訓・同音語句			技術系のグラフを正しく描くことができる。			
	[前期中間試験]						
	* 試験答案の返却および解説 3. 初級演習 2 (4) 形式名詞、補助動詞、口語文章体、 禁則処理、主語の省略、中点、 括弧・コロン、複合問題 4. 中級演習 1 (3) 接続詞、接文語句、常用漢字表、 氏名の表記、カタカナ単語			科学技術分野では、論理的で客観的な文章表現が必要であることを理解する。 論理的客観的な文章表現のためには、何に留意すべきかを理解する。			
	前期末試験						
	* 試験答案の返却および解説 5. ワープロ、表計算ソフトの使い方 (2) 6. 中級演習 2 (5) 長音符号、学術用語、副詞の表記、 音読み副詞、訓読み副詞、英文チェック			ワープロ、表計算ソフトを用いて、技術系の文章の中に数式、図表を記載することができる。			
	[後期中間試験]						
* 試験答案の返却および解説 7. 中級演習 3 (3) 当て字、漢数字、数字を含む慣用句、 修飾語と被修飾語、読点による誤読回避、 複合問題 8. 文章作成の知的テクニック (4) 接続詞、文末の表現			科学技術分野の論理的で客観的な文章を、基礎的レベルで書くことができる。 より良い表現方法を検討することができる。				
後期末試験							
* 試験答案の返却および解説							
評価方法	授業時間内に実施する演習への取り組み（姿勢と結果）および定期試験の結果を総合して評価する。両者の比率は各四半期ごとに演習 60%、定期試験 40%とする。						
学習・教育目標との関係	◎ (D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション） 自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。						
関連科目	技術科学表現演習 I（3 学年）→技術科学表現演習 II（4 学年） ↳ 工学実験 I（3 学年）↳メカトロニクスシステム設計（4 学年）→卒業研究（5 学年）						
教材	教科書：塚本真也、「知的な科学・技術文章の徹底演習」、コロナ社 ISBN978-4-339-07784-1						
備考	授業を受けるに当たって、特別の準備は必要ない。常日頃より、分かりやすく正確な文章を書く心がけを持つことが大切である。						